

## 秋田焼山の火山活動解説資料（平成31年3月）

仙台管区气象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

## ・ 噴気など表面現象の状況（図1、図2-①）

焼山監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、叫沢源頭部の噴気の高さは噴気孔上 50m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。梅森に設置している監視カメラによる観測では、湯沼で弱い噴気が認められました。

## ・ 地震や微動の発生状況（図2-②）

火山性地震は少ない状態で経過しました。  
火山性微動は観測されませんでした。

## ・ 地殻変動の状況（図3、図5）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 秋田焼山 湯沼と叫沢源頭部の噴気の状況

- ・ 左図：山頂の西約2kmに設置されている焼山監視カメラ（東北地方整備局）の映像（3月24日00時01分頃）です。  
赤丸で囲んだ部分が叫沢源頭部の噴気で、この時観測された噴気の高さは50mです。
- ・ 右図：梅森（湯沼の東約1km）に設置している監視カメラの映像（3月21日）です。  
青丸で囲んだ部分が湯沼の弱い噴気です。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成31年4月分）は平成31年5月14日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

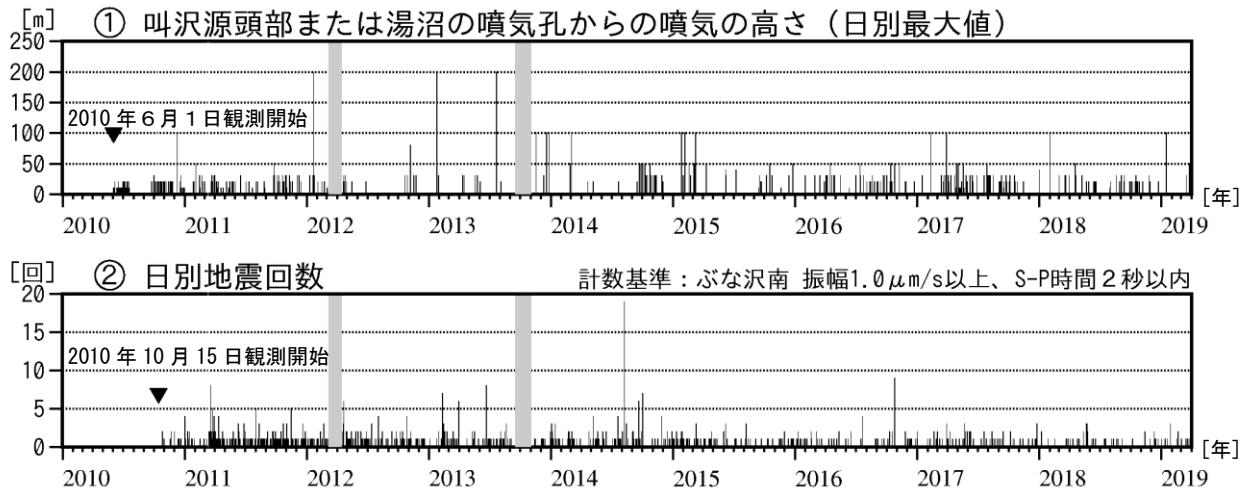


図 2 秋田焼山 火山活動経過図（2010 年 6 月～2019 年 3 月）

- ・ 灰色部分は欠測を表しています。
- ・ ②2015 年 9 月以降は山の南西 7-8km 付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。（2010 年から 2015 年 9 月までは山の南西 7-8km 付近の地震など山体以外の地震を含みます）

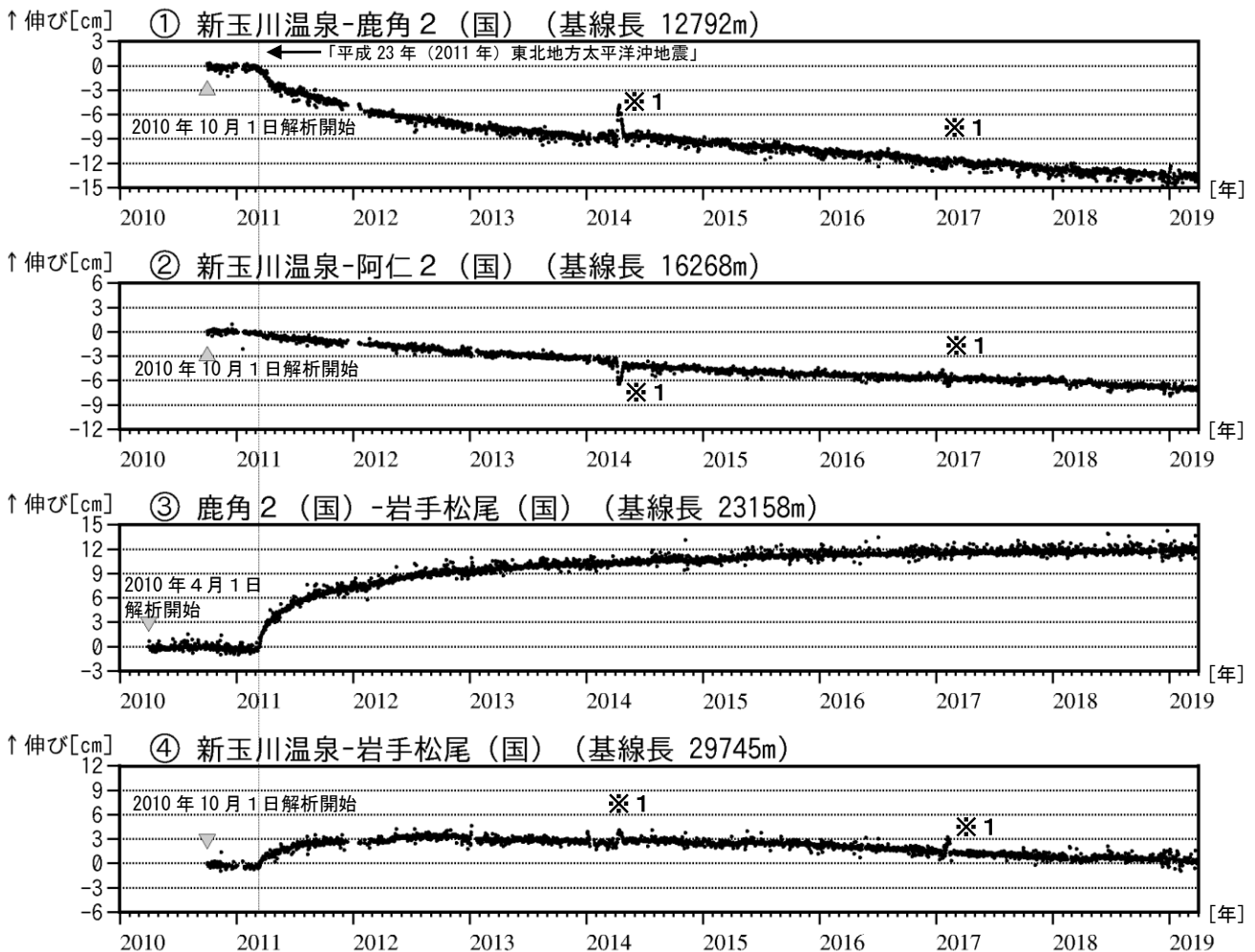


図 3 秋田焼山 GNSS 基線長変化図（2010 年 4 月～2019 年 3 月）

- ・ 「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・ ①～④は図 5 の GNSS 基線①～④に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・ (国) は国土地理院の観測点を示します。
- ※ 1 2014 年 3 月から 4 月、2017 年 1 月から 2 月にかけての新玉川温泉観測点の変動は、火山活動に起因するものではないと考えられます。

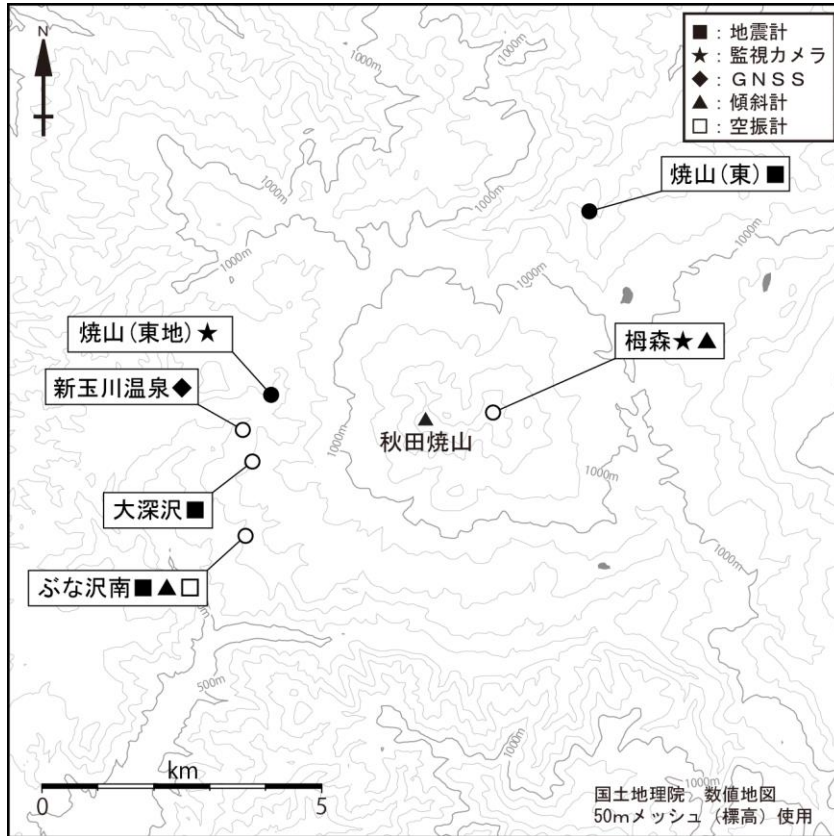


図4 秋田焼山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東地）：東北地方整備局 （東）：東北大学

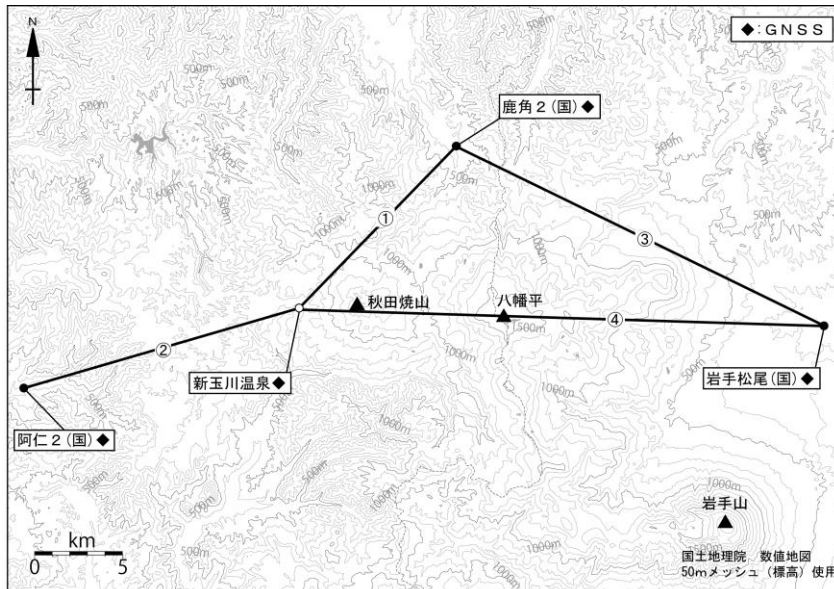


図5 秋田焼山 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院